「jkオナホ嫁　純情姉妹と孕ませセックス三昧」

●1章

○研究施設（？）

（コツコツと廊下を歩く足音と、かすかに早穂と菜穂の話し声が聞こえる）

菜穂「……お姉ちゃん、ほんとにこっちで合ってるの？」

早穂「ああ、えーっと、101号室だから……あった、ここだ。この部屋にあたしらのパートナー候補がいるって話だったろ。先に待ってるらしいから……」

（ウィーンと自動ドアが開いて）

早穂「お邪魔しまーす……うわ、こんな広い部屋にベッド一つだけぽつんって……まるで病室じゃねーか」

菜穂「あっ……ほら、お姉ちゃん。あの人が私たちのパートナー候補の人じゃない？……どうも、初めまして」

早穂「あれ？　あんた、ウチの学校の後輩じゃね？　なんか見たことあるぞ。あたしの一個下だよな？」

菜穂「そうなの？　じゃあ、私の先輩？　えっと、よろしくお願いします。私、菜穂と言います」

早穂「あたしは早穂、よろしくな。で、あんたも話は聞いてんだろ？」

早穂「……あ？　だから、あたしらが子作り推進法のパートナー候補なんだってば。もしかしてお前、説明てきとーに聞いてただろ？」

菜穂「少子化対策のために政府が打ち出した新政策、子作り推進法……先輩の遺伝子は、これからの世の中に必要な、大変優秀な、大切な遺伝子だと認定されたんです」

早穂「んで、あんたと遺伝子レベルで相性最高ってことで選ばれたのがあたしたち。あんたの遺伝子を、今後の残すこと。それがあたしたちの目的ってこと。……はあ、あんたみたいなのが運命の人なんてね」

菜穂「運命の人なんて……そんな風に言ってるのお姉ちゃんだけだよ。こんなの、ＡＩが決めただけのことなのに」

早穂「あのなぁ菜穂、こんな広い世の中で遺伝子レベルで相性のいい相手に会えるなんてそんなの、滅多にないことだろ。なんかこう……ロマンチックじゃねーか。まあ、こりゃ期待外れだけどさ……ふふん……学校でもたまに見かけてたけど、ほんとあんた、いっつも暗い顔して教室の隅っこで地味〜にしてんじゃん。あたしみたいなのと相性抜群なんて、まったく思えないけどね」

菜穂「うん、お姉ちゃんはどっちかっていうと、先輩と真逆のタイプだし。ギャルっていう

か……」
早穂「まあな～。でも……（近づいて）こうして近くで見ると、結構好みの顔してるかも♡それに、体つきも結構イケてるんじゃない……？♡」
菜穂「……お姉ちゃんもちょろいなぁ。見た目によらず〝運命の人〟とか好きだもんね」
早穂「うっせえなぁ。運命の人かどうかは置いといても……遺伝子レベルで相性良いってことは、最高に気持ちいいエッチができるってことだろ♡　そんなの、期待しねーほうがおかしいって♡　ふふ、楽しみだな……♡　それに菜穂だって文句言ってたけど、結局パートナー候補の申請受けたじゃねえか」
菜穂「私は別に、この話受けたほうがいろいろと都合がよさそうだなって思っただけ。国からの援助を受けられるっていうから。先輩と子作りなんて興味ないし、めんどくさい」
早穂「お前なぁ……」
菜穂「でも、私には私なりの人生プランがあるの。だから先輩のパートナー……先輩のオナホ嫁になるのは、絶対に私だから」
早穂「……あんた、何ビックリした顔してんだよ？　あんたのパートナーってのは要するに、あんたのオナホになるってことと同じことだろ……だって国の目的は少子化対策なんだから。簡単な話っしょ？　あんたのザーメン注がれまくって、たくさん孕んで、たくさん子供作るのが目的」
菜穂「はぁ、ほんと……めんどくさ」
早穂「さーて、あたしと菜穂、どっちが選ばれるかな～？」
菜穂「……先輩、何言ってんですか？　どっちと結婚するかなんて決められないって……そんなの、先輩が決めるんじゃないですよ。私たちが決めるんでもありません」
早穂「そう、あたしと菜穂のどっちと結婚するかを決めるのは……ここ♡　あたしたちの子宮♡　あんたの精子を先に着床させたほうが、あんたのパートナーになれるってわけ♡」
菜穂「私たちは先輩のオナホにならなきゃいけない……いえ、先輩のパートナーになるには、オナホとしてたくさんエッチするのが一番手っ取り早いってことです」
早穂「菜穂、ほんと冷めてるな……」
菜穂「うん、所詮は国の決めたことだもん。私はただ助成金をもらって、楽な生活がしたいだけだから」
早穂「はっ、あたしだって負けねえよ？　ぜってーあんたを手に入れてやる。一生最高のセックスができるなんて夢のようだもんな♡　考えただけで興奮しちまうぜ♡」
菜穂「……お姉ちゃん、あんま強がらないほうがいいよ。ま、私もお姉ちゃんには負ける気しないけど」
早穂「……ん？　あんたは何をすればいいのかって？　だーかーらー、あんたはあたしたちのオマンコにザーメン中だししまくってりゃＯＫってこと」
菜穂「簡単に言えばそういうことですね。はぁ……改めて、これからよろしくお願いします、先輩」

早穂「へへ、よろしくな。あ、そうだ。家の住所は教えてもらったか？」
早穂「……もう、ほんと人の話聞いてないんだな、あんた。今日からあたしたちのどっちかがあんたの子供孕むまで、一緒に住むんだってば」
菜穂「私たちは一足先に入居させてもらってます。さすがは政府の用意した家、って感じでしょうか。なかなか良い家ですよ」
早穂「ふふーん、どうだ？　なんかワクワクしてきただろー？」
（あなたに近づく菜穂）
菜穂「（耳元で）先輩、お姉ちゃんより先に……私のこと、孕ませてくださいね。頼みますよ？」
早穂「あっ、おい菜穂ずるいぞ」
菜穂「ふふ、お姉ちゃん、もう先輩のこと好きになっちゃってるんでしょ。ほんとは純情なんだから……緊張して、奥手が発動しちゃってるよ？」
早穂「フン、あたしがそんなウブな訳ねーだろ……（耳元で）あたしのオマンコ、これからあんたの好きなようにしていいんだぜ？　たくさんザーメン注いでさ……だってあたしは、あんたのオナホ嫁なんだから……♡」
菜穂「先輩、よろしくお願いします」
早穂「（同時に）よろしく頼むぜ♡」

●2章・えっち姉妹の耳舐め手コキ

○研究施設？（続き）
早穂「……さて、さっさとウチに帰りたいとこだけど……」
菜穂「念のための最終確認として、この部屋で実際の相性を計測するんだよね。ここに設置されてる監視カメラは、色々とデータを計測してるんだそうです」
早穂「そうそう。ま、こんなカメラがあるとこであたしたちがオマンコ広げてセックスするわけにもいかねえから、あんただけ気持ちよくしてやるよ。今回だけだぞ？」
菜穂「……はい、大丈夫です。実際に性行為に至らなくても、それで十分、数値を計測できるらしいと聞いてますので。……なんですか？　そりゃあ私だって、早く先輩とエッチしたいですよ」
早穂「お、菜穂ったら積極的だな～♡」
菜穂「あのさお姉ちゃん、先に先輩の子供を孕んだほうがオナホ嫁認定されるんだよ？　だったらさっさとセックスして、中だししてもらったほうが効率がいいでしょ。……好き好んでこんな先輩とエッチするわけないじゃない。お金のためだよ、ぜんぶ」
早穂「ったくもう……ま、早くセックスしてえってのは同意だな♡　ほら、あんた……ベッドの上行けよ」
（ベッドの軋む音）
早穂「ふふ、緊張してんのか？　大丈夫、あたしたちが気持ちよくしてやっからさ。カメラに撮られながらエッチなことしたくねえって？　そんなこと言ったって……あんたのここ……もうこんなパンパンになってんじゃん♡　あたしたちとエロいこと出来るって聞いて、興奮しちゃったか？　このままじゃ苦しいだろ？」
菜穂「ま、ここで私のエッチの虜になってくれれば、今後も中出ししてもらえる可能性が高まりますし。頑張りますよ」
早穂「あとでラブラブ射精してもらうのはあたしだっつの♡　ほら、こっち向いて……」
早穂「ちゅ……キスでとろとろにしてやるから。舌、入れていいよな？　ちゅ、はむっ……んっ……ちゅ、ちゅ……はむっ、じゅるる……んっ……」
菜穂「先輩、腰引けちゃってますよ？　お姉ちゃんばっかりずるい、私にもキスさせて……」
早穂「ぷはっ……あ、おい菜穂……」
菜穂「先輩、お姉ちゃんより私のキスのほうが……もっと気持ちいいですから。覚悟してください？　ちゅ、んっ……はむっ、ちゅ、ちゅ……はぁっ……んっ……じゅるる……ちゅ……」
早穂「……すっげ……菜穂、えっろ……」
菜穂「先輩、ほら……目開けて、私のこと見て？　ちゅ……じゅるる……んっ……んっ……ちゅ、ちゅ……ぷはっ……ふふ、すごい、オチンチンどんどん大きくなってる。キスだけで

こんなになるなんて、先輩、まさか童貞ですか？」
早穂「ん……じゃああたしは、あんたの無防備なお耳……いただいちゃおうかな♡　あーん……あむっ……ふふ、ビクッってしてる♡　ゾクゾクすんだろ？　ちゅ、ちゅ、じゅるる……あたしの耳舐め、すっげー気持ちいいって評判なんだから♡　ちゅ、ちゅ、じゅるる、じゅるる、はぁっ、じゅるる……」
菜穂「じゃあ、私も……こっちのあいてる耳、責めてあげますね。ちゅ、ちゅ、じゅるる……はむっ……ちゅ、ちゅ……じゅるる……」
早穂「耳たぶ舐めあげて……あーん、じゅるる。耳の穴のまわり、舌でなぞって……奥まで……じゅるるる、ちゅ、じゅるる……はぁっ……じゅるる、じゅるる……」
菜穂「女の子二人に責めてもらえるなんて、贅沢ですね……ちゅ、ちゅ、じゅるる、じゅるる……はぁっ……んっ……先輩、オチンチン苦しいですよね？　私が抜いてあげますから」
（衣擦れの音）
菜穂「ほら、シャツまくって……ベルト、外してあげます」
早穂「ちゅ、ちゅ、じゅるる……はぁっ……菜穂、あたしがシャツ持っててやるよ。ほら」
（ベルトを外す音）
早穂「ふふ……あんたの体、すっごい熱くなってる……あたしの耳舐め、どうだった？　まだ足りねえか？　ちゅ、ちゅ、じゅるる……んっ……ちゅ、ちゅ、じゅるる……」
菜穂「パンツも脱がせてあげますね？」
（衣擦れの音）
早穂「わ……あんたのチンポ……すっげ……」
菜穂「ふうん、意外に立派なオチンチンですね。……ん。お姉ちゃん、何赤くなってんの？」
早穂「や、なんでもねえよ。その……おっきいチンポ、こんなのブチ込まれたら気持ちよさそうだな～ってさ♡」
菜穂「そう……さぁ、先輩。すぐにイかせてあげますからね。亀頭を指でグリグリってしてあげて……ぐりぐり、ぐりぐり、ぐりぐり」
早穂「ふふ、声、我慢しなくていいんだぜ？　耳も一緒にせめてやっから。ちゅ……ちゅ……じゅるる……」
菜穂「あーあ、どんどんカウパー出てくる……もう、手がぬるぬるになっちゃったじゃないですか。……ほら、このぬるぬるになった手で、先輩のオチンチンを握ってあげて……下から、上まで、ゆーっくりしごいてあげます。し～こし～こ、し～こし～こ、し～こし～こ……」
早穂「んっ……ちゅ、ちゅ、じゅるる……菜穂の手コキ、そんなに気持ちいいのか？　あたしの耳舐めで感じてんのか？　どっちだよ。なぁ？……ちゅ、ちゅ、じゅるる……んっ……じゅるる……」
菜穂「先輩、もう少し早くしますよ？……しこしこ、しこしこ、しこしこ。私を嫁にしてくれれば、一生こんな風に気持ちいいことしてもらえるんですよ？」

早穂「あたしのほうが、たーくさん気持ちいいことしてあげるってば♡　だから、家帰ったらあたしに一番最初にザーメン注いでくれよな♡」
菜穂「……オチンポしごきながら、耳も吸ってあげますから。ほら……しこしこ、しこしこ、しこしこ、しこしこ……耳も、一緒に……ちゅ、じゅるる、じゅるる……んっ……どうです？　ちゅ、ちゅ、じゅるる」
早穂「菜穂、こいつのチンポいじるの順番変われよ」
菜穂「ちゅ、ちゅ……じゅるる……やだ……」
早穂「ったく……じゃあ、姉妹のダブル手コキなんてどうだ？　なあ？　ほら、菜穂の手とあたしの手で一緒にしごいて……しこしこ♡　しこしこ♡　しこしこ♡　しこしこ♡」
菜穂「ちゅ、ちゅ……お姉ちゃんの手と、絡み合って……先輩のオチンチン、ぐちゃぐちゃになってるよ……」
早穂「ほらほら、そろそろイキたいんじゃねえのか？　もっと早くしてやっから♡　しこしこ♡　しこしこ♡　しこしこ♡　しこしこ♡　やべえ……我慢できねえよ。なあ、キスしてくれ♡　ちゅ、ちゅ……はぁっ♡　じゅるる、じゅるる……はむっ、ちゅ、じゅるる……」
菜穂「先輩、もう限界ですよね？　一気にいきますよ……しこしこ、しこしこ、しこしこ、しこしこ……」
早穂「ほらほら、ザーメンびゅーってしろよ♡　びゅー♡　びゅー♡　びゅー♡　うわあ、すっげ……」
菜穂「……先輩の精子、どろっどろ……くっさ……けど・・癖になりそうな匂い・・へんなの」
早穂「あは♡　イっちゃったな……とろけた顔しやがって……ちゅ、ちゅ……やっぱあんた、かわいい♡」
菜穂「はぁ……さ、早く帰ろうよお姉ちゃん。先輩、はいこれティッシュ……早く片づけてください」
早穂「イったばっかで頭ぼーっとしてんじゃねえのか？」
菜穂「もう……今日だけですよ、拭いてあげますから。（拭いてあげつつ）先輩、私のほうがお姉ちゃんより気持ちよかったですよね？」
早穂「いや、あたしだろ？　なあ？　あたしとヤればまた気持ちよくしてやっからさ……菜穂より先にエッチしような♡」
菜穂「それを決めるのは先輩でしょ。それに、先にセックスしたからってすぐに精子が着床するとは限らないし……（立ち上がって）じゃあ、お先に失礼します」
早穂「あたしたち先に帰ってるからさ。荷物準備したら、ウチ来いよ。……夜が楽しみだな♡　じゃあなっ♡」

●3章・妹とエッチ

○通り
（通りを歩いていくあなた）
（ピンポーンとインターホンを鳴らして、ドアが開いて）
菜穂「はい……あ、先輩。遅かったですね。道にでも迷ったんですか？　どうぞ、上がってください」

○姉妹の家
（奥に入っていくあなたと菜穂）
菜穂「今、お姉ちゃんちょうど買い物行ってるんで。先に家の中案内しときますね」
菜穂「えっと……ここが先輩の部屋です。大きな荷物は先に届いてるんで、あとで確認してください。で、こっちがお姉ちゃんの部屋で、ここが……私の部屋です」
菜穂「……そうだ。私、先輩に渡したいものがあって……ちょっと探すので、中入って待っててもらえません？」
菜穂「ふふ、女の子の部屋に入るの、初めてですか？　そんな固くならなくてもいいですよ。お姉ちゃんの部屋はもっとキラキラしてて可愛らしい部屋なんですけど……私の部屋、あんま物置いてなくて。殺風景ですみません」
菜穂「ベッド、座っていいですから」
（バタンとドアが閉まる）
菜穂「ドア開いてると寒いじゃないですか……ふふ、これで、部屋に二人っきりになっちゃいましたね」
（あなたに迫る菜穂）
菜穂「……ごめんなさい、先輩に渡したいものがあるってのは、ウソです。お姉ちゃんも出かけてるし、好都合ですから……私の子宮にたっぷりのザーメン、注いでくれますか？」
（ベッドがきしむ音）
菜穂「抵抗しないんですね……よかったです。ちゅ、ちゅ……先輩の精子、お姉ちゃんに取られる前に私がたっぷり搾り取ってあげますから」
菜穂「さっき、耳舐めすっごい感じてましたよね……またしてあげましょうか。ちゅ、ちゅ、じゅるる……はむっ、ちゅ、じゅるるる……感じてきました？　ちゅ、ちゅ、じゅるる……ぷはっ」
菜穂「乳首はどうですか？　お好きですか？　ほら、シャツの下から……手を入れて……お腹から、少しずつ上がって……背筋とか、指先ですーってなぞってあげたりして……耳も一緒に……ちゅ、ちゅ、じゅるる、じゅるる……乳首、ピンピンにたってますね。ほら、指先で……ぐりぐり、ぐりぐり、ぐりぐり。ふふ、オチンチン勃起してきた。パンツ、脱がして

あげますから」
（ベルトを外す音など）
菜穂「……勘違いしないでください。お姉ちゃんはもうすっかり先輩のこと好きになっちゃってますけど……私はお姉ちゃんと違って、別に先輩のことは好きじゃないし、先輩とエッチなことがしたいわけでもないんです。先輩のオナホ嫁になれれば国から助成金がたっぷり出ます……そのお金を手に入れるために、先輩のオナホ嫁になりたいだけなんですからね……」
（玄関ドアが開く音がして）
早穂「ただいま〜！　あれ？　菜穂ー？」
菜穂「……はあ、お姉ちゃん帰ってきちゃった。めんどくさ……まぁいいや、さっさとセックスしちゃいましょう。ほら、フェラしてあげますから」
菜穂「……声、出さないでくださいね。お姉ちゃんにバレたらめんどいんで」
菜穂「はぁっ……んっ……うわ、くっさ……先輩、ちゃんとオチンチン洗ったほうがいいですよ……はむっ……ちゅ、ちゅ……じゅぽじゅぽじゅぽじゅぽじゅぽ」
（ノックの音がして、ドア越しに）
早穂「菜穂ー？　いるの？　あいつの靴もあったけど……もう来てんのか？」
菜穂「じゅぽじゅぽ……んっ……ぷはっ……（早穂に）お姉ちゃん、おかえり。えっと……先輩さっき来たから部屋に案内したけど……トイレでも入ってんじゃない」
早穂「んん？　まあ、じゃあ探してみるか。飯作っとくから、あとで降りて来いよ」
（遠ざかっていく足音）
菜穂「……ふふ、お姉ちゃんより先に、先輩の精子もらうのは私ですから……もっとフェラで気持ちよくしてあげますね。じゅぽじゅぽじゅぽじゅぽ……」
菜穂「どうですか、遺伝子レベルで相性の良い口オナホは？　オナニーなんかと比べ物にならないくらい気持ちいいでしょ？　じゅぽじゅぽじゅぽ……良いですよ、先輩の気持ちいいとこ、喉奥まで使ってください。私は先輩のオナホ、なんですから……んっ、うっ……じゅぽじゅぽじゅぽじゅぽ……うっ……じゅぽじゅぽ……おえっ……じゅぽじゅぽじゅぽ……っ……げほげほっ……ぐ、じゅぽじゅぽじゅぽ……ぷはっ……はぁっ、はぁっ……ほんと、くっさいオチンチン……」
菜穂「先輩のおちんちん・・しゃぶってるだけで身体が熱くなってくる・・これが遺伝子レベルで相性がいいってこと・・？あぁオマンコ濡れてきちゃってる・・おちんちん舐めただけで・・こんなの初めて・・もっと本気でおチンポ舐めてあげますね・・・♡」
菜穂「遺伝子レベルで気持ちがいい口オナホのバキュームフェラ♡きっと腰抜けちゃうくらいきもちいいですよ♡」
菜穂「じゅぽじゅぽ……んぐっ……じゅぽじゅぽじゅぽ……っ……げほげほっ……ぐ、じゅぽじゅぽじゅぽっふふ精子ぴゅっぴゅっしたくなっちゃいました？」
菜穂「いいですよ、先輩のザーメン全部飲んであげますから、このまま私の喉奥に射精して

下さい」
菜穂「じゅぽじゅぽ……んぐっ……じゅぽじゅぽじゅぽ、はい、いいですよこのまま喉奥マンコにおしっこするみたいに射精してください、びゅーびゅーびゅー♡」
菜穂「んぶっ♡ふー♡ふー♡ごくっごくっごくっ♡げぇぇぇぇぷ♡ふふ先輩のザーメンご馳走様でした」
菜穂「本当におしっこしてるみたいに凄い量♡いいんですよ私は先輩のオナホなんですから、私の喉奥イマラチオ気持ちよかったですか？」
菜穂「流石、遺伝子レベルで相性のいいザーメンですね、飲んだだけで私のオマンコ発情しちゃいました」
菜穂「どうです？　早くこのトロトロオマンコにおチンポ突っ込みたいですか？」
菜穂「……でしょうね。いいですよ……ほら、私のここも、もう準備はできてるので愛液でパンツがぐっちょり♡」
（服を脱ぐ菜穂）
菜穂「さ、まずは正常位からいきますか？」
（菜穂を押し倒すあなた）
菜穂「きゃ……ちょっと、突然押し倒すなんて……サイテー。興奮してるんですか？　ふふ、先輩が乗り気のほうが私も助かります。さ、早く私の中に精子たくさん注いでください……めんどいんで、早く済ませてくださいね」
菜穂「んっ……きっつ……先輩のオチンチンでっか……うっ……おっ？♡　おほっ♡　はぁ♡　はぁ♡　すっごい……先輩の、最高に気持ちいい……♡　うそ……おっ♡　おおっ♡　こんなの♡　も、もっと♡　もっと動いて下さ……いっ♡　んほっ♡　おっ♡　おっ♡　はぁ、はぁ♡　これが、遺伝子レベルで相性が良いエッチ♡　やばっ♡　おっ♡　おほおっ♡」
菜穂「ハグッ……ハグしてくださひっ♡　もっと、おぐっ……奥まで、オチンチンたくさん突いて♡　んほぉっ♡　おっ♡　おっ♡　私、早く済ませてなんて……おっ♡　言ったけど、もっと……いっぱいしたい♡　だめ♡　ぎもぢいいっ♡　オマンコがオナホになりたがってる……っ♡　おっ♡　おおっ♡」
菜穂「イぎっ♡　だっ、めっ……やめっ♡　んほおおっ♡　イッぢゃう♡　おっ♡　そごっ♡　ぎもぢいいとこっ♡　おほおおっ♡　イぐっ♡　おっ♡　おっ♡　イ、イッぢゃううう♡　うっ♡　んうっ♡」
菜穂「……はぁ、はぁ……うっ♡　イッっぢゃった……先輩の……くっさいオチンチンで……イカされちゃった……はぁ、はぁ……私の子宮も先輩の精子欲しがってます……これが相性最高のエッチ……もっかい……もっとたくさんエッチしてくださいひ……♡」
菜穂「はー♡　はー♡　先輩、今度は私が上になってあげましょうか。私、騎乗位得意なんですよ……んっ……んしょ……♡」
菜穂「ほら、アクメでとろとろになった私のオマンコ……先輩のオチンチン、簡単に入っち

ゃいますよ♡　はっっ♡　んおっ♡　さっきよりぎもぢいいとこ、当たってる♡　おっ♡　おほっ♡　すごいのっ♡　腰とまんないっ♡　おっ♡　おっ♡　オチンチンぎもぢいいっ♡　おっほ♡　おっ♡　せんぱいっ♡　いっ♡　先輩のオチンチン、子宮まで届いてうっ♡　おっ♡　はぁっ♡　あっ♡　おっ♡　おっ♡　おごっ♡　すっごい♡　はーっ♡　はーっ♡　イキそうですか？♡　おっほ♡　おっ♡　いいですよ♡　激しくしてあげますねっ♡　おほっ♡　先輩のザーメン、たくさんください♡　私のこと、孕ませてくあさいっ♡　おほおおっ♡　おっ♡　んぎっ♡　ぎもぢっ♡　どまんないっ♡　あっ♡　あああっ♡　すっごい♡　せんぱいっ♡　ああぅ♡　オチンチンびゅーってしてるっ♡　おまんこの中、ザーメンでいっぱいになるっ♡　んほおおっ♡」

菜穂「おっ……はー♡　はー♡　中で、イッちゃいましたね……♡　んっ……うわ……先輩のザーメン、こぼれちゃう……だめっ……♡　どろどろのザーメン……」

菜穂「はぁ、はぁ……夢中になっちゃった……お姉ちゃんに、声聞こえちゃったかもしれませんね。はぁ、先輩とのエッチなんてどうでもいいと思ってたのに……こんな気持ちいいなんて、ズルいですよ」

菜穂「ふふ、でも……先輩の最初の中だしは私がいただいちゃいましたね。これでお姉ちゃんより先に、一歩リードです」

菜穂「あの……やっぱりたくさんセックスしたほうが、妊娠の可能性って高まるじゃないですか……ふふ、私、先輩のオナホ嫁になりたいんです。私、まだまだいけますよ……二回戦、どうですか？♡」

●4章・姉とエッチ

○学校・空き教室

（キーンコーンカーンコーンとチャイムの音）

（ざわざわと散っていく生徒たち）

（ガラっとドアが開いて）

早穂「よお、あんたこんな空き教室で何やってんだよ」

早穂「あ？　先公に頼まれてプリントの整理してるだあ？　めんどくせーことしてんなあ」

（ドアを閉めて、入ってくる早穂）

早穂「しゃあねえな、あたしも手伝ってやるよ。そのほうが早く終わるだろ？……で、早く終わらせたら……（耳元で）早くウチ帰って、エッチしようぜ？♡」

早穂「ほら、貸してみ。やってやるから」

（ガサゴソとプリントを整理しつつ）

早穂「……あんたさ、昨日……部屋で菜穂と、ヤってただろ」

早穂「はっ……やっぱな。聞こえるに決まってんだろ？　ぜーんぶ丸聞こえだっつの……く

そ、菜穂のやつ、あたしに黙って……あんたも、あたしより先に菜穂とヤりたかったんだろ」
早穂「ちがくねーよ。だったら断りゃよかっただろうが……菜穂が先に妊娠したら、あたしとは結婚できなくなんだぞ？　あたしはそんなの……いやだ」
早穂「ああ、まあ……最初に会ったときにはさ、最高に気持ちいいエッチができるからっていったけど……あたし、それよりもさ、あんたのこと……気になってんだよ」
早穂「……ったく、うるせーな！　好きになっちまったんだよ、あんたのこと！……だって、この世界で遺伝子レベルで相性最高なんて……そんなの、運命じゃんか」
早穂「……なあ、あたしとシてくれよ。あたし、あんたの精子が、あんたの子供がほしい。あんたの嫁に……オナホ嫁でもなんでもいい、あんたと一緒になりてえよ」
早穂「キ、キス……してもいいか？　ん……ちゅ、ちゅ……」
早穂「ん？　初対面のときと雰囲気ちげえって？　き、気のせいだろ。あたしも一応学校ではギャルで通ってるし、菜穂にもそんな、弱っちい女っぽいとこ、見せたくないし」
早穂「……うるせえな、黙れって。ちゅ、ちゅ……はむっ……んっ……じゅるる、ちゅ、ちゅ、んっ……ぷはっ……あたしの胸、触っていいよ。ほら……。大丈夫だろ、こんな外れにある空き教室、誰も来ねえって……」
（衣擦れの音）
早穂「ん、ほら……あたしのおっぱい、結構でけえだろ？　ふふっ。んっ……ちゅ、ちゅ……昨日さ、菜穂とあんたの声めっちゃ聞こえてきて……すげえムラムラしちまってよ……その、一人でオナニーシちまったんだ……あんたのこと考えてさ……ちゅ、ちゅ……はむっ……じゅるる……」
早穂「菜穂とのエッチ、気持ちよかったか？　あいつ……ああ見えて結構いろいろやってんだよな……あたしも、頑張るからさ。あんたのオナホになるから……な？　ちゅ、ちゅ……
早穂「……ほら、あんたの大好きな耳♡　あーん、はむっ……んっ……じゅるる……ちゅ、ちゅ……じゅるる、じゅるる……はぁっ♡　あんたと二人きりになれて嬉しい……♡　ちゅ、ちゅ……じゅるる、じゅるる……はぁっ……菜穂とは、どんなエッチしたんだよ……ん？　ちゅ、ちゅ、じゅるる……じゅるる、はぁっ♡　ちゅ、ちゅ……」
早穂「フェラ、か……じゃああたしもやってやるから……ほら、ズボン脱いで……」
（衣擦れの音）
早穂「はは、もう勃起してんのな♡　はぁっ……んー……いや、なんでもねえけど……その……あたし、見た目でよく勘違いされんだけど実はそんなに経験なくてさ。だから……この間あんたにしてあげた手コキとかも、見よう見まねで……だ、だって、菜穂の前でそんなウブなとこ見せたら恥ずかしいだろ！」
早穂「……ん、だから……その、菜穂より下手くそかもしんないけど、頑張るから……」
（衣擦れの音）
早穂「はぁっ……あんたのオチンチン、んっ……すごい、鼻の奥までムッとくる匂いだ。癖になりそう・・・♡えっと、まずはじゃあ、少しずつ舌で舐めんぞ？……はぁっ、ちゅ、ち

ゅ、れろれろ……れろれろ……すごい熱い……ちゅ、ちゅ、れろれろ……れろれろ……はぁっ……」
早穂「そ、そんな見るなよ。照れんだろ……次は咥えてやるから……はむっ、んっ……じゅぽじゅぽじゅぽ……おえっ……じゅぽじゅぽ……ぷはっ……ど、どうだ？　気持ちいいか？　はむっ、じゅるる、じゅぽじゅぽじゅぽじゅぽ……うっ、んっ、じゅぽじゅぽじゅぽ……」
早穂「んっ……んぅ……我慢汁が、しょっぱひ……じゅぽじゅぽじゅぽ……うっん……ぷはっ」
早穂「どうだ？　気持ちよかったか……？　え、本当か？　嬉しい……」
早穂「そろそろいれたいって……？　あ、ああ……いいぜ」
（衣擦れの音）
早穂「でも、場所どうする……こんな教室じゃ……え？　や……いいけどさ、その……優しくしてくれよな。あたし、初めてなんだよ……そうだよ、処女ってこと。うるせーな、したことねぇんだから、しょうがないだろ」
早穂「でもいいよ、あんたになら何されてもさ……ほら、さっさといれろよ……」
（ギッ……と机が軋む音など）
早穂「うあ……あんたのオチンポが、オマンコに当たってる……あっつい……おっきい……ううっ……ゆ、ゆっくり入れて……うっ……」
早穂「……き、きっつい……はぁっ、はぁっ……すげえ……少しずつ、奥に入ってきてる……あんたのオチンポ……はーっ、はーっ……んぐっ……んっ……　マンコの中、あんたのおチンポに押し広げられてる……はぁっ、はぁっ……すごい、初めては痛いっていうのに・・全然痛くない・・むしろ、腰が抜けちゃいそうな程気持ちいい・・♡やっぱりあんたは私の運命の相手なんだな・・♡」
早穂「うん、ゆっくり……ゆっくり動いて……少しずつ……んんっ♡　あっ♡　はぁっ♡　あっ♡　待って……声出ちゃう……うあっ♡　ちょっと動いただけで気持ち良すぎる・・くっ……♡　んっ♡　んっ♡　ふうっ♡　だめ……♡　ああっ♡　やめっ……声我慢できない……♡声・・誰かにバレちゃう・・♡……ひゃあっ♡　うあ♡　そこっ♡　はーっ♡　はーっ♡　気持ちいいっ……いっ♡　はぁっ♡　はぁっ♡　ね・・ねぇ、ぎゅって、ハグ・・・して……？♡」
（衣擦れの音）
早穂「あっ♡　はー♡　はー♡　あったかい……あっ♡　はあっ♡　はあっ♡　すごい……どんどん気持ちよくなってく……こんな遺伝子レベルで気持ちいいセックスしちゃったら他の人とセックスできなくなるっ♡んあっ♡　あっ♡　んうっ♡　声、我慢できないっ……ふっ♡　うっ♡　え？　もっと激しくしていいかって……？　う……ああ、いいぜ♡」
早穂「あっ♡　おっ♡　おっ♡　おほっ♡　だっ、め……おかしくなっちゃう♡　オマンコ気持ち良すぎて痙攣してる♡　あっ♡　あっ♡　んぅう……♡　はぁっ♡　ぎもぢいっ♡

いっ♡　オマンコ、ぐちゅぐちゅ言ってる♡　あっ♡」
早穂「(耳元)好き♡あんたの事が大好き♡オマンコが♡子宮があんたのオナホ嫁になりたいって言ってる♡好き♡セックスしただけで身も心もあんたに堕ちちゃった♡」
早穂「ひゃあっ♡　あっ♡　あっ♡　うぐっ♡　イッ……そんなに突いたら……いっぢゃう♡　はぁ♡　はぁ♡　い、一緒に……イクッ……中……あたしのオマンコの中、精子頂戴っ……中っ♡　私のjkギャルオマンコあんたのザーメンで孕ませて♡あっ♡　あ　あ　あっ♡　イッ、いぐううううっ♡♡」
早穂「……はー♡　はー♡　しゅ・・しゅごい・・♡これが、相性最高のエッチ……♡うわ……ほら、あたしのマンコからザーメンあふれてくる……♡」
早穂「かっこよかったよ、あなた♡　はぁ、はぁ♡ねぇ、こっち来て……キス、しよ♡　ん……ちゅ、ちゅ♡　はぁっ……ちゅ、はむっ……じゅるる……ちゅ、ちゅ……」
早穂「ふふ……あたし、絶対あなたの嫁になる。あなたのこと、大好きだから……♡　ちゅ、ちゅ……んっ……もっといっぱいあんたの精子、あたしの子宮にぶちこんでくれ♡　私の子宮孕ませて・・ね？　ちゅ、ちゅ……♡　んっ……ちゅ、ちゅ……♡」

●5章・ドスケベ姉妹による妊娠レース

○姉妹の家
（鍵を開けて、玄関ドアを開けるあなたと早穂）
早穂「菜穂ー？　ただいまー」
菜穂「おかえりお姉ちゃん。ん、先輩もおかえりなさい。お姉ちゃん、先輩と一緒に帰ってきたんだ」
早穂「ああ、まあな。その……帰りに、ちょうど一緒になってさ」
菜穂「ふ～ん……？　あっそう」
早穂「なんかおやつあったっけか。お腹すいちまった～」
（あなたに迫る菜穂）
菜穂「……（耳元で）ねえ、先輩。またエッチしましょ？　私、部屋で待ってるんで……お姉ちゃんにバレないように、来てくださいね」

○妹の部屋
（ガチャ……とドアを開けて入ってくるあなた）
菜穂「ふふ、来てくれたんですね先輩♡　待ってましたよ」
（あなたに迫る菜穂）
菜穂「私……昨日先輩とセックスしてから、ずっと忘れられなくて……はぁ♡　早くエッチしましょ？♡　ちゅ、ちゅ……ふふ、キスもすっかり慣れましたね。ほら、舌絡めて……ちゅ、ちゅ……じゅるる、はむっ、じゅるる……ズボン、脱がせてあげますね。ん……私のあそこも、触ってくれますか？　ちゅ、ちゅ……じゅるる……んっ♡　うっ……♡　はぁ♡　ちゅ、ちゅ♡……」
（ガチャとドアが開くと同時に）
早穂「……菜穂」
菜穂「ぷはっ……お姉ちゃん。勝手に入ってこないでよ」
早穂「ずりぃぞ、抜け駆けしやがって。こいつのオナホ嫁になんのはあたしなんだよ。な？　あんたもそう思ってんだろ……？　キスだって……あたしのほうが……ちゅ、はむっ、んっ……ちゅ、ちゅ、じゅるる……はむっ……」
菜穂「もう……先輩、お姉ちゃんより私のほうが……ほら、私のオマンコ、もうこんなにトロトロになってるんですよ？　はやく、オチンポ入れたいですよね？」
早穂「じゃあさ……これからあたしたちと連続生ハメセックスして、先に孕んだほうがあんたのオナホ嫁になる……どうだ？」
菜穂「ふうん、じゃあ順番ね……私が最初に誘ったんだから、私が先だからね。ね、先輩？」
菜穂「ほら……ベッドに横になってください。私の騎乗位テクで、たーっぷり射精させてあ

げますから♡」
菜穂「ふふ、さっきのキスだけでこんなにガッチガチに勃起して……♡　私のおまんこ……ほら、見てください。もうこんなびしょびしょなんです♡　遺伝子レベルに相性のいい先輩のおチンポみただけでこんなに発情しちゃってるんです・・♡入れますよ？　大丈夫……私はお姉ちゃんと違って、エッチ慣れてるんで」
早穂「な……菜穂」
菜穂「ほら、ぐちゅぐちゅって……先輩のオチンチン、おまんこの中に入ってく……♡　入ってくる……♡　うっ♡　ああっ♡　どんどん動いちゃっていいですよね？　ね？　はっ♡　はっ♡　おっ♡　おおっ♡　やっぱり……ぎもぢっ♡　最高♡　先輩のオチンチン、最高にぎもぢいいっ♡♡　おほっ♡　おっ♡　ほらほら、ちょっと動き方変えますよ？　うあっ♡　おっ♡　前後に……擦るようにして……♡　おほっ♡　おまんこの、ぎもぢいいとこっ♡　いっぱい擦れる♡♡　おっ♡　おっ♡　ああっ♡」
菜穂「（耳元で）はぁっ♡　ぎもぢいっ……♡　ねえ、先輩。お姉ちゃんと一緒に帰ってきて……まさか学校でエッチしたんじゃないですか？　あっ♡　はっ♡　んううっ……はー♡　はー♡　だって、帰ってきたときに髪の毛もボサボサ、洋服もよれよれでしたもん……分かりやすすぎですって……♡　おっ♡　ぎもぢいいとこ当たる……♡　おっ♡　おっ♡　学校の……どこでエッチしたんですか？」
菜穂「……空き教室？　ふふ、お姉ちゃん初めてなのに、学校の空き教室でって……先輩、サイテーですね♡　おっ♡　そごっ♡　ぎもぢっ♡　おおっ♡」
早穂「菜穂、なんでお前知ってんだよ……私が処女って……」
菜穂「分かるよそれくらい♡　先輩、お姉ちゃんの処女マンコ、気持ちよかったですか？　あたしのオマンコと、どっちがいいですか？　ねえ？　ほらっ……おっ♡　おおっ♡　あは、言葉攻めされて感じてるんですか？　オチンチンがオマンコのなかで……おっきくなってるの分かりますよ♡　んおおっ♡　そごっ……んほおおっ♡　ぎもぢいっ♡　いっ♡　あああ♡♡」
菜穂「この調子だとすぐ射精しちゃいますね♡　ほらほら……もっとオマンコ締めて、もっと激しくしてあげますからね……♡　お姉ちゃん、見てて……あたしが先輩に中だしされるとこ♡　おっ♡　おほおっ♡　先輩、お姉ちゃん見てますよ……さっきまでエッチしてたお姉ちゃんの目の前で、あたしに射精させられちゃうんだ……♡　おっ♡　おっ♡」
早穂「はぁ、はぁ……私も、もう我慢できない……体、あっつくなっちゃって……」
菜穂「あーあ、先輩……ほら、お姉ちゃんオナニーはじめちゃいましたよ……？　かわいそう……あとでお姉ちゃんにも、ちゃんとザーメン注いであげてくださいね♡」
早穂「あっ♡　あっ……♡　はぁ、はぁ♡　だめ……手が止まんない……♡妹とあいつの前なのに・・　こんなエッチ見せられて、我慢してろなんて無理・・♡　あっ♡　あんっ♡」
菜穂「ほらほら先輩、私の生マンコに中だししちゃってください♡　おっ♡　おほっ♡　ほら、もっと突いて……おごっ♡　ぎもぢいいっ♡　先輩の情けないオチンチンには、私のお

まんこが相性ピッタリなんですから♡　おっ♡　おっ♡　んほおおっ♡　いぎっ♡　いぐううっ♡　出してっ、中に、せーしいっぱい出してください♡♡　おおおおあっ♡」
菜穂「はー♡　はー♡　やったぁ……いっぱい出ましたね♡　こんな濃いザーメン、絶対孕んじゃう……ごめんねお姉ちゃん、先輩のオナホ嫁は、私だよ」
早穂「菜穂、次はあたしの番だろっ……もう、自分でやってもおさまらねえよ……あんたのチンポ、またぶちこんでくれよ……！」
（衣擦れの音）
早穂「ちゅ、ちゅ、はむっ……んっ……キスじゃ足りねえか？　わかった、ほら、フェラしてやるからっ……あむっ……んっ……じゅぽじゅぽじゅぽ……じゅるるる……」
菜穂「こんなエッチなお姉ちゃん初めて見た……♡　お姉ちゃん、もっと奥まで咥えてあげなよ♡　先輩、喉奥好きなんだよ」
早穂「んっ……奥まで……んんっ……ごぼっ……じゅぽじゅぽじゅぽ……んっ……おえっ、げほげほ……じゅぽじゅぽじゅぽ……ぷはっ……はー♡　はー♡　もっと、してやるからなっ……はむっ……じゅぽじゅぽじゅぽ……ごぼぼ……おっ、おえ……じゅぽじゅぽじゅぽじゅぽ……はぁっ……やった、オチンチンまた元気になった……♡」
菜穂「おねーちゃん、ほら……先輩のオチンポほしいなら、自分でおまんこ広げておねだりしないと。ねえ、先輩？」
早穂「はぁっ！？　あっ……うう……わ、分かったよ。くそっ……そんなじろじろと見んなって……♡　……私のオナホまんこに、あなたのおチンポいれて・・ください・・♡」
早穂「んううっ♡　ああっ……入ってくる……♡　あっついオチンポ……入ってきてる♡　うああっ♡　すごい……さっきと違うとこ当たって……ああっ♡」
菜穂「うわ、お姉ちゃん気持ちよさそー」
早穂「あっ♡　はあっ♡　動いてっ♡　いっぱい、おまんこぐちゃぐちゃにして♡　うっ……♡　あっ♡　あっ♡　はあっ♡　ねぇ、手握って……キス、して……♡　んっ♡恋人繋ぎキス・・♡　はっ♡　ちゅ、ちゅ……はー♡　はむっ♡　ちゅ、ちゅ……♡　きもちいっ♡　あっ♡　はあっ♡　ちゅ、ちゅ……♡　しあわせっ♡好き♡大好き♡ちゅ、ちゅ……はー♡　はむっ♡　ちゅ、ちゅ……♡　はっ♡　あっ♡　あああっ♡♡」
菜穂「先輩、お姉ちゃんにも上乗ってもらったらいいんじゃないですか？♡」
早穂「はー♡　はー♡　上……で、出来るかな……いいよ、あたし、やってあげっから……」
（衣擦れの音）
早穂「んっ……んしょ……はー♡　はー♡　うう、自分から入れるの……なんか恥ずかしい……♡　入れるぜ？　んんっ……はあっ♡　うあっ♡　一気に、奥まで入っちゃ♡　うっ……♡　ああっ♡　はー♡　はー♡　入った……♡　う、動くぞ？　んっ、んっ、はぁ♡　はぁ♡　自分で腰振るの……恥ずかしっ……んっ♡　ふっ♡　ぎもぢっ♡　うっ♡　んんっ♡」
菜穂「ふふ……先輩、私のほうが気持ちよかったですよね？　それとも、へたっぴでも一生

懸命腰振ってるお姉ちゃん見て興奮してんですか？　ほんと、変態ですね……」
早穂「はっ♡　はっ♡　ううっ♡　気持ちいい♡　あたしのオマンコ、じゅぽじゅぽいってる……♡　止まらない……ぎもぢいっ♡　いっ♡　うあっ♡　あっ♡　はあ♡」
菜穂「お姉ちゃん頑張ってるし、私も手伝ってあげようかな……（耳元で）ほら、先輩……お耳をお口で、乳首を指先でいじってあげますね♡　お耳と乳首の同時責め、好きですよね♡オチンチンはお姉ちゃんのオマンコで気持ちよくなって……お耳と、乳首は私に任せてください♡　はむっ、ちゅ、じゅるるるじゅるるる、ちゅ、ちゅ、じゅるるる……」
早穂「あっ♡　はあっ♡　すご・・おチンポ私の中でおっきくなって・・♡あは♡　意識飛んじゃいそうなくらいきもちいい……うっ♡　はあっ♡　はあっ♡　ああっ♡」
菜穂「ほらほら、どんどん気持ちよくなっていっちゃいますよ……私の耳舐めと乳首責めでおちんちん、おっきさせて下さいね♡ちゅ、はむっ、じゅるるる、じゅるるる……お姉ちゃんもそろそろイキそうですし、先輩も、びゅーびゅーって気持ちよくなっちゃっていいんですよ？　ちゅ、ちゅ、じゅるる、じゅるる……」
早穂「うああっ♡　ああっ♡　だめっ♡　ぎもぢいいっ♡　おかしくなっちゃうっ♡　うっ♡　あたしのオマンコの中に、びゅーってして♡　一緒に……あんたのザーメンで私の子宮孕ませて・・っ♡びゅー♡びゅー♡びゅー♡」
菜穂「あは……先輩、すっごい射精量、お姉ちゃんのオマンコからザーメンどぷどぷ溢れてる、いやらしー♡」
早穂「はあっ♡　はあぅ♡　な、あたしのエッチも結構気持ちいいだろ……？　ちゅ、ちゅ……んっ……やっぱあたし、あんたと相性最高なんだって……ちゅ、ちゅ……大好きだよ」
菜穂「もう、お姉ちゃん意外と乙女なんだから、せーんぱい♡　まだまだ妊娠レースは始まったばっかですよ？　もっともっと気持ちいーことしましょ♡」
早穂「ちゅ……ん……私もあなたともっとエッチしたい……♡　もっと、いっぱい……こんな幸せで気持ちいいの、やめられない……♡」
菜穂「次はまた、私の中に出してもらいますからね？」
早穂「あたしも、まだまだいっぱいできる・・よ♡」

●6章　ーF姉ルート

○早穂の家
（ピピピ……と目覚ましが鳴って）
早穂「おはよ　あなた・・♡ふふ、また寝ぐせついてる♡　ほら、ここ……んー……ふふ、直った」
早穂「昨日菜穂から連絡あってさ、新しい彼氏とうまくいってるって。仕事も頑張ってるみたいだし……今度一緒にごはん行こうって言ってた。私も、このお腹の子のために、いろいろ頑張んないとな♡」
早穂「男の子と女の子の双子だってさ、きっといい子に育つよ、なんていったってあなたとの子供だから・・♡」
早穂「あなたと一緒になれて、本当に幸せ・・♡ありがとな……んっ……ちゅ、ちゅ……んっ、はぁっ♡　ふふ、朝からエッチする気？　別に、今は学校も休みだし、今日はなんも予定ないからいいけど……」
早穂「昨日だって散々したくせに♡妊娠中のjkとエッチしたいなんてほんと変態なんだから　分かったよ……あたしのマンコも、もう濡れてきちまったしな♡　ふふ、ほらズボン脱いで……フェラしてやっから♡」
（衣擦れの音）
早穂「(匂い嗅いで)すーっ、すんすん……はぁっ♡　いつ嗅いでもドキドキする匂い♡　いただきまーす♡　はむっ……んっ……じゅぽじゅぽじゅぽじゅぽ……んっ……んぐっ……じゅぽじゅぽじゅぽ……ぷはっ」
早穂「あたしも、ずいぶんフェラ上手くなっただろ？　菜穂よりもずうっと上手くなったと思わないか？　はむっ、じゅぽじゅぽじゅぽ……じゅるる、ぷはっ。ほら、あたしのオマンコ……見て、こんなにトロトロなってる♡　あんたのオチンポで、私のボテ腹jkマンコ一杯犯して・・・♡」
早穂「ぐうっ♡　うっ♡　おっ♡　おっ♡　ぎもぢいっ♡　最高♡　はあっ♡　はあっ♡もっと、もっとおぐっ♡　うあっ♡　おほっ♡　おほおっ♡　あたし、あんたのオナホ嫁になれて幸せだ……♡　好き・・♡大好き・・♡おっ♡　おほっ♡　」
早穂「あぁ、気持ち良すぎて、おっぱいから母乳出てるっ♡
いいよっ飲んで♡きっと遺伝子レベルで相性がいい母乳だから美味しいよ♡」
早穂「ああっ♡おっ♡おっぱい吸われるのきもぢっ・・♡
ふふ赤ちゃんみたいで可愛い♡よしよし♡ママのおっぱいいっぱい飲んでね♡」
早穂「おおっ♡おっ♡おぐっとどいてるっ♡赤ちゃんの部屋ノックされてる♡
きもぢいいっ♡子宮奥、つ突かれるの意識飛んじゃいそう♡」
早穂「おおっ♡母乳止まらないっ♡これ赤ちゃんのなのにっ♡

美味しい?私のおっぱい♡ふふ良かった♡」
早穂「いっちゃいそうなの?♡いいよ♡私の子宮に一杯赤ちゃんの素だして♡ボテ腹オナホ嫁に一杯びゅーびゅー射精して♡
びゅーびゅーびゅー♡」
早穂「おおっ♡ほっ♡パパのザーメン一杯注がれてる・・・っあぁあったかい・・・♡幸せぇ・・♡」
早穂「うん・・私も好き・・大好き・・・あなたのオナホ嫁になれて幸せ・・」
早穂「ふふ、今日も……これからもいっぱい、エッチしようね♡あなた♡ちゅっ♡」

●7章・ーF妹ルート

○菜穂の家

（ピピピ……と目覚ましが鳴って）

菜穂「先輩、おはようございます。ふふ、昨日エッチしたあとそのまま寝ちゃったんですよ」

菜穂「今週末、お姉ちゃんと一緒に久しぶりにごはん行こうって話してたじゃないですか。それが……さっき連絡きて、新しい彼氏との約束と被っちゃったって。そうですね……今週末は二人でゆっくり過ごしましょうか」

菜穂「え？　たくさんセックスできるねって？　もう、先輩ったら……そろそろ私も、お腹おおきくなってきたから……セックスも控えめにしたほうがいいと思うんですよ。先輩と私の赤ちゃん……こんなに大きくなって……」

菜穂「・・嘘です、私も・・先輩とエッチしたい・・です」

（菜穂に迫るあなた）

菜穂「きゃ……先輩……ちゅ、ちゅ……んっ……こらっ、勝手におっぱいにむしゃぶりつかないでくださいよ♡　おっぱいでちゃいますから・・♡あっ♡　んんっ♡恥ずかしいっ♡　ちゅ、ちゅ……じゅるる……んっ……♡　またオチンチン勃起させてる……いつもそうやって勝手に……後輩のボテバラ嫁をオナホ扱いなんて、最低です。ちゅ、ちゅ……んっ♡　んんっ……♡でも・・先輩にオナホ扱いされるのは・・嫌いじゃないですよ・・♡」

菜穂「はぁ……はぁ……♡　しょうがないですね。まぁ、私は先輩のオナホ嫁ですから。好きなだけ、セックスさせてあげますよ……」

菜穂「ほら・・これが妊娠3ヶ月のjkオナホ嫁オマンコですよ・・♡もう、安静にしてなきゃいけないのに、先輩のおちんちん見ただけでトロトロに発情しちゃってる♡ずるいです♡ゆっくり・・入れてください・・♡んっ♡あぁ♡きもちいいぃ♡　ちゅ、ちゅ……はー♡　はー♡……早く、動いてください♡　たくさん、奥までめいっぱい突いて♡　お願いします♡」

菜穂「おっ♡　おほっ♡　ぎもぢいいっ♡　先輩とエッチするたびに、どんどん気持ちよくなる♡　おほっ♡　んほおっ♡　おっ♡　あは、先輩……シコシコ腰振って、動物みたい……おぐっ♡　うっ♡　はぁっ♡　おほおおっ♡」

菜穂「いいですよ、私は先輩のオナホ嫁なので物みたいにガンガンついてくださいっ♡　おっ♡きもぢいっ♡先輩のおチンポ最高・・っ♡」

菜穂「初めは先輩のこと・・冴えない人だなって思ってましたけで　いまは先輩のこと・・その・・大好きです・・よ、こんな気持ちいいセックスしてくれるの先輩だけですから・・♡」

菜穂「あっ♡先輩に好きって言われるたびに私のオマンコきゅんきゅん喜んじゃってる♡　もっと好きって言ってください・・♡」

菜穂「はぁはぁ♡私も好き・・大好きですよ・・先輩・・♡」

菜穂「先輩のザーメン・・私のボテ腹オナホに注ぎ込んでください・・♡
びゅーびゅーびゅー♡」
「ああっあっ♡あつ・いっ♡すごい・・ドクドク私の子宮に先輩のザーメン注ぎ込まれてる・・♡幸せすぎて失神しちゃいそう・・♡」
「あぁ♡ザーメンがこんなに溢れて・・先輩のザーメンもったいない♡
じゅるるるる、ごくごくごくっぷはぁぁ♡
先輩のザーメン美味しい・・♡先輩のことも先輩のおチンポも大好き・・・♡」
「ふふ♡これからも、オナホ嫁の私に、たーくさん種付けして一杯子作りしましょうね♡旦那様♡」

●8章・IFハーレムルート

○姉妹の家
（ピピピ……と目覚ましが鳴って）
早穂「ん……おはよー」
菜穂「お姉ちゃん、おはよう。先輩も、おはようございます」
早穂「……パートナー決めが終わったってのに、こうやって三人で一緒に住むことになるなんて考えてもみなかったな」
菜穂「さすが先輩の精子ですよね……私たち姉妹、同時に孕ませちゃうなんて。しかも政府からの特例で、私たち二人ともオナホ嫁として認定されちゃったんですから……」
早穂「でもさ、あんたもあたしたちと毎日エッチできて最高だろ？　ボテバラのオナホ嫁が二人……選び放題なんてさぁ♡　ま、あたしたちも気持ちいいからお互い様だけど♡」
菜穂「助成金もたっぷりもらえましたし……あれ？　先輩、まーたオチンチン勃起させてるんですか。昨晩、散々三人でエッチしたのに……」
早穂「ま、もう奪い合う必要もねえし……好きなように、セックスしまくろうぜ♡　ほら……（耳元で）またお耳から始めようか？　ちゅ、ちゅ、じゅるる……」
菜穂「（耳元で）先輩の変態……どんだけエッチする気ですか……まったく♡　ちゅ、はむっ、ちゅ、ちゅじゅるるる……」
早穂「ほうら、耳を責めながら……あたしは乳首でもいじめてやろうかな？　ふふ、すげー乳首もコリッコリに勃起してる♡　ほら、くりくり♡　くりくり♡　くーりくーり♡」
菜穂「じゃああたしは、先輩のオチンポ、手でしごいてあげますね。朝っぱらからこんなガッチガチに勃起させて……簡単にはイカせてあげませんから。じっくり焦らしてあげますよ……しこしこ、しこしこ、しこしこ……」
早穂「お耳も♡　あーん……はむっ、ちゅ、ちゅ、じゅるる……じゅるる……はむっ、ちゅちゅ……」
菜穂「トロトロにしてあげますから……しーこしーこしーこ♡」
菜穂「ふふ、jkオナホ嫁姉妹の耳なめ乳首責めされながらの手コキはどうですか？耳も乳首もおちんちんも蕩けちゃいそうな程きもちいいですよね？旦那様♡」
早穂「あああぁ♡あなたの乳首と耳責めてるだけなのに興奮しておっぱい出てきちゃった私の新鮮な母乳のんで、あなた♡」
菜穂「あぁずるいお姉ちゃん、私の濃厚ミルクも飲んでください、旦那様♡」
早穂「あぁおっ♡おっぱい吸われるの気持ちいい♡ふふ、私のjkおっぱい美味しい？赤ちゃんみたいで可愛い、よしよし」
菜穂「私の濃厚おっぱいも味わってください、ふふお姉ちゃんのおっぱいと私のおっぱいに挟まれて窒息しちゃそうですか？ほら、私の母乳とお姉さんの母乳がブレンドされて美味

しいでしょ?あんっ♡そんなにがっつかないでください♡」
早穂「遺伝子レベルで相性がいいjkオナホ嫁のとれたてミルクは美味しいでちゅか？
うふふ、良かったでちゅね～」
菜穂「ふふ、おっぱい飲みながらお姉ちゃんによしよしされて本当の赤ちゃんみたいですね
でも、おちんちんはこんなに立派♡ふふ、しーこ♡しーこ♡しーこ♡私のオナホミルクもち
ゃんと味わってくださいね」
早穂「乳首と耳も同時に責めてやるからな、両手で乳首をコリコリコリ♡
耳も・・じゅるちゅるじゅるちゅるちゅじゅる♡ぷはぁ♡」
菜穂「しこしこしこしこしこ♡」
早穂「くりくりくりくりくり♡」
菜穂「ふふ、もういっちゃいそうなんですか?旦那様のザーメンもったいないので、私の口
に注ぎ込んでください♡えぁーーー♡」
早穂「なっずるいぞ、菜穂、私だってザーメン欲しいのに・・」
菜穂「うふふ、早いもの勝ちだよ（くちあけながら）
ほあ、旦那様わらひのくひまんこにザーメンビュービュー射精してくだはい♡しこしこ♡
びゅーびゅー♡」
菜穂「んむっ♡すごっおしっこみたいに一杯口マンコにザーメン注ぎ込まれてる♡
んっんっんっ♡ごくっげぇぇぇぇぷっ♡ふふご馳走様でした旦那様♡」
早穂「あぁ菜穂ばっかりずるい♡　ねぇ・・あなた・・♡私も・・♡私にもあなたのザーメ
ンいっぱい注ぎ込んで♡」
菜穂「駄目だよ、オマンコも私が先にしてもらうんだから　ねぇ?旦那様、菜穂のボテ腹オ
マンコに入れたいですよね?♡」
早穂「あたしのjkギャルオナホだよな?♡ほら、あなたのおチンポ期待して私のオマンコ
とおっぱいから愛液止まらない」
菜穂「どっちにするんですか？　早く……」
菜穂「菜穂のオマンコに入れてください♡」
早穂「（同時に）早穂のオマンコにぶち込んでくれ♡」